

## 平成28年度 法人事業報告

平成28年度も、法人理念の「共に生き」「共に暮らす」を中核にすえ、障がいがあっても地域で自立した生活が送れる支援を目指して事業展開を進めてまいりました。

事業所運営では、多機能型事業所「エコーンファミリー川中島」においては年々増加する利用者の受け入れで手狭になって来ている作業スペースを少しでも余裕のある場にと、近隣にある空店舗の活用をと交渉を進めましたが、家主さんの了解が得られず断念。また、就労継続支援B型事業所「わくワーク」・「炭房ゆるくら」においては、定員割れの状態が続き年度末までに補充は出来ませんでした。

一方暮らしの部分では3棟目のGH建設に向け計画を進めて参りましたが地域の理解が得られず実行に移すところまではいきませんでした。どちらも、まだまだ地域の皆様の障がい者理解は進んでいない事を認識する事になりましたので、今後はそのための手立てをしっかりと計画し進めていかなければならないことを実感致しました。

社会福祉法人の制度改革の部分では、平成29年度から新しい体制でスタートできるよう、定款の一部改正・理事・評議員の選任等は制度に基づいて進めてまいりました。

建物・設備の部分では大きな費用負担はありませんでしたが、開設15年を過ぎることからして、設備。備品等の不備が目立ち交換・修理に充てる経費が年々膨らんでいる現状も見られるようになりました。

### 1、 理事会・評議員会及び監査の開催

#### (1) 監 査

期 日 平成28年5月20日（金）

場 所 花工房エコーンファミリー事務所

監査事項 平成27年度の事業執行状況及び財産状況について、関係帳簿及び証拠書類の照合監査を受ける。いずれも適正であることが認められました。

#### (2) 第1回 理事会・評議員会

期 日 平成28年5月29日（日）

場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂

議 題 第1号議案 平成27年度事業報告（案）

第2号議案 平成27年度決算報告(案)・監査報告  
報告事項 マイナンバー規定について

(3) 第2回 評議員会

期 日 平成28年 7月2日(土)  
場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂  
議 題 第1号議案 理事の選任について

第2回 理事会

期 日 平成28年 7月13日(水)  
場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂  
議 題 第1号議案 評議員の選任について

(4) 第3回 評議員会

期 日 平成29年 1月8日(日)  
場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂  
議 題 第1号議案 花工房福社会定款一部改正について  
報告事項 1 今後の評議員会スケジュール等について  
2 GH建設に関わる現状について

第3回 理事会

期 日 平成29年 1月8日(日)  
場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂  
議 題 第1号議案 花工房福社会定款一部改正について  
第2号議案 評議員選任・解任委員候補者の選定について  
報告事項 1 今後の理事会スケジュール等について  
2 GH建設に関わる現状について

(5) 第4回 理事会・評議員会

期 日 平成29年 3月12日(日)  
場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂  
議 題 第1号議案 平成28年度補正予算(案)について  
第2号議案 平成29年度事業計画(案)について  
第3号議案 平成29年度収支予算(案)について

## 2、 職員・利用者の動向（平成 29 年 3 月末現在）

職員数 75 人（正規 21 人・嘱託 16 人・パート 38 人）

採用 男性 3 人(嘱託 2 人・パート 1 人)

女性 4 人(正規 2 人・嘱託 1 人・パート 1 人)

退職 男性 2 人(正規 1 人・嘱託 1 人)

女性 3 人(正規 1 人・嘱託 1 人・パート 1 人)

利用者 95 人（男子 67 人・女子 28 人）

入所 7 人（男子 5 人・女子 2 人）

退所 2 人（男子 1 人 死亡 女子 1 人 一般就労）

## 3、 事業内容

（管理部門）

- ① 健康管理 健康診断 4 月 25 日・26 日・6 月 28 日  
12 月 15 日・16 日に健康づくり事業団で実施  
歯科検診 5 月 16 日 宮本歯科医の協力
- ② 食事提供 提供日数 241 食  
川中島 一富士フードサービスに委託 一食 515 円  
（食事提供加算で実費 300 円）  
朝陽 弁当持参  
わくワーク 宝来 3 種類から選択  
ゆるくら デリクック千曲 4 種類から選択
- ③ 家庭との連携 個別懇談 4 月 14 日～5 月 10 日の間  
エコーンつうしん 年 3 回発行(6 月・10 月・2 月)  
連絡ノートを活用  
家族会に出席
- ④ 防災安全 避難訓練年 2 回事業所ごとに実施
- ⑤ 苦情対応 商品発送ミス・商品発注ミスの 2 件
- ⑥ 職員研修  
職員会議 毎週水曜日を当てる。(月 1 回は全職員参加の会議)  
エコプロ会議 月 1 回 工賃向上の検討会  
施設内研修 9 月 21 日 「精神に障害を抱える方への接し方」  
北信病院 作業療法士 金井香陽子様  
11 月 13 日「事業所内のチームワークを検証しよう。」  
長野大学 遠藤 忠先生

9月14日 運転講習会 (DVD 視聴・講義・テスト)

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

施設外研修 リーダー養成ゼミナール・相談支援従事者スキルアップ研修・工賃向上実践セミナー・いい働く場作り隊  
農福連携事業報告会・強度行動障がい支援者養成・  
サビ管研修・製菓・製パン研修・就労支援フォーラム  
食品衛生責任者講習・苦情対応システム研修・虐待防止・権利擁護研修・新任職員研修。就業支援基礎研修  
魅力的な商品開発・中堅職員研修・

⑦ 地域交流

交流 信大付属長野中学 2 年生 40 人・川田小 4 年生・川中島小・  
6 年生・川中島民生児童委員・

実習 長野大学生・社会福祉専門学校生・カレッジオブキャリア専門  
学校生・長養生・稲養生・長野市立長野高校生・川中生・  
篠ノ井東中生・

視察・見学 島根県事業振興センター・かりがね福社会・飯山市人権  
教育課・富山県農福連携事業所・いい働く場づくり隊・  
群馬県千代田町役場職員等

講演 鹿児島県共同受注窓口研修・東北セルフ研修・宮城県工賃向上  
研修・秋田県重度障がい者支援のありかた・青森農福セミナー

(事業部門)

① 日中活動支援事業

多機能型事業所 エコーンファミリー (川中島・朝陽)  
生活介護・就労支援・就労継続支援 B 型

就労継続支援 B 型 わくワーク (三輪)・炭房ゆるくら (篠ノ井)

② 共同生活援助事業 「さんふれんず」・「さくら」

③ 短期入所事業 「ゆうゆう」

④ タイムケア事業

⑤ 相談支援事業

①～⑤までは、別紙にて報告

## 平成28年度多機能型事業所エコーンファミリー事業報告

- 1、方針 利用者一人ひとりが、元気に通ってくる事業所としての役割は、月の出勤率がとても高いことからして担えたと考えます。又、障がい特性を發揮した、活動の場づくりでは、現状の作業にとどまらず、地域連携・企業連携・農業連携で施設外就労が増え、働く場が多様になったことから、新しい仕事にチャレンジして、やりがいのある仕事・楽しく係れる仕事を見つけて頑張る姿を確認する事が出来ました。

しかし、一般就労に結びつける部分では、本人が納得できる企業とのマッチングがなかなか進まず1件のみに終わってしまいました。

地域に支えられている事業所であることの意識は、皆自覚して交流の場を設定したり、積極的に地域の方々とふれあい場を設けたりしながら日々の活動を推進して来ました。

所得保障の部分では、前年度より工賃は全体でアップする事が出来ました。

### 2、重点目標

- (1) 支援の充実・危機管理の徹底では、障がい者が大きな事故にあうということは無かったが、きつい言葉がけや、職員の運転ミスでヒヤッとする場面があったりで、支援の充実までにはいたりませんでした。
- (2) 作業の部分では、積極的に施設外就労に関わって来ました。
- (3) 事あるたびに、具体的な事例を伝え、職員間の報連相の大切さを図って来ました。
- (4) 若い職員が自由に発言出来る場として、全体会の職員会議では必ず、Gワークを入れて少人数でのフリートークの時間を作りました。また、エコプロ会議では、バズセッションを取り入れアイデアなど出しやすい場作りに努めてきました。
- (5) 利用者も職員も、常に共に育つを念頭に活動をして参りました。

### 3、事業内容

職員・利用者数（平成29年3月末現在）

職員数 47人（正規16人・嘱託7人・パート24人）

採用 男性1人（パート1人）

女性5人（正規2人・パート3人）

退職 男性1人(嘱託1人)  
女性3人(正規1人・嘱託1人・パート1人)

利用者数 63人(男子39人・女子24人)  
入所者 6人(男子4人・女子2人)  
退所者 2人(男子1人死亡 女子1人一般就労)

#### 4、 日中活動支援

- (1) 生活介護事業 20人(24人)
- (2) 就労継続支援B型事業 30人(32人)
- (3) 就労移行支援事業 10人(7人)

各事業の事業報告は、別紙による。

#### 5、 余暇活動支援

チャリティコンサート 6月26日  
1日レク(コンニャクパーク) 7月16日  
開眼寺で座禅体験 9月17日  
川中島フェスティバル 10月16日  
ハーモニー夢まつり 10月29日  
ニコニココンサート 11月19日  
安茂里芸能交歓会 11月27日  
土曜活動 年27回行なう

#### 6、 工賃支給

	平成27年度	平成28年度
売上総額	54,180,560円	55,391,050円
工賃支払総額	18,916,350円	20,710,600円
平均工賃額	28,661円(59人)	28,765円(60人)
就労継続B型	37,562円(27人)	38,137円(30人)

# 平成28年度「生活Aグループ」事業報告

## 1. 方針

- (1) 利用者一人ひとりの健康に留意し、個々に応じた生活習慣を支援する。安全を最優先とし、安心して過ごせる環境を整える。
- (2) 利用者一人ひとりの特性を理解し、出来ることや行えること、好きなことを尊重した活動を提供する。
- (3) 家庭と連携を図り、利用者一人ひとりの思いに寄り添う支援を実践する。
- (4) 利用者一人ひとりの思いや気持ちを受け止めながら、個々のペースや能力に応じたサービスを提供する。
- (5) 作業や活動を通して、地域交流・障害者理解の推進を実践する。

## 2. 利用者・職員数（平成29年3月末日現在）

利用者 11名 （内 生活介護 11名）

職員 8名 （内 正規 2名 嘱託 2名 パート 4名）

## 3. 事業成果

- 健康管理、食事、更衣、排泄等 生活全般支援
- 配達・販売：パン・おたっしや豆腐・花等の配達、販売
- 回収作業：牛乳パック・古紙・アルミ缶回収／分別
- 施設内活動：小物作り・音楽療法・ダンス教室・水泳教室・桃の郷3F利用・料理体験・花壇作り・季節行事・誕生日会・アート活動、絵本を読む会
- 施設外活動：各種レクリエーション・小川村営プール・バス外出・カシス／ブルーベリー畑の管理 など
- 地域ボランティアの協力による活動：マイクロバス外出（ボランティアの運転）、施設行事での付添い、夢まつりの運営・付添い、絵本を読む会
- 交流 等：川中島地区民生児童委員・川中島中学校福祉委員会・職場体験受け入れ・夢まつり
- 外出活動：
  - ◎1日レクリエーション：  
群馬こんにゃくパーク（7月 施設レク）、権堂七夕見学（8月）、松代真田丸展示（8月）大町 国営アルプスあづみの公園（9月）、戸倉で足湯体験・白鳥園でランチ（12月）
  - ◎半日レクリエーション：  
お花見（4月）、水野美術館 くまのプーさん展（5月）、じゃがいも掘り・坂城

バラ見学・信濃美術館 ジブリ展(6月)、小川村営プール(7月)、県立歴史館(8月)、少年科学センター(9月)、そいでいでランチ(10月)、須坂菊花展(11月)、クリスマス会(12月/AB合同)、国体見学・全国中学校スケート大会見学・(1~2月)、ナイスハートバザール参加(2月)、須坂人形博物館・まとめの会(親参加)(3月)

#### 4. 売上結果

- ・小物部門            売上目標：1,150,000円            売上結果：1,202,033円  
    (小物・糸こんにゃく・フリーズドライスープ・カシス売上・その他)
- ・受託小物部門    売上目標：100,000円            売上結果：167,212円  
    (古紙・アルミ缶・牛乳パック回収・ロンドロール・自動販売機手数料・その他)

## 平成28年度「生活Bグループ」事業報告

### 1. 重点目標

- (1) 日中活動における安全の確保を最優先とし、健康状態、食事、更衣、排泄等の生活全般について援助していく。  
利用者一人ひとりがいきいきと生活し、お互いを尊重し合いながら活動できるような集団作り、環境作りをしていく。
- (2) 利用者一人ひとり社会性・作業能力に応じ、適材適所の作業の配置に取り組む。  
生産的活動・余暇的活動の充実を図る事により、心身ともに生活の質の向上を目指していく。
- (3) 報告・連絡・相談を徹底し、円滑なコミュニケーションを図りながら利用者支援に努める。
- (4) 利用者の能力を生かし、充実した活動が提供できるよう、職員同士でアイデアを出し合い実践していく。
- (5) リヤカー販売や農作業を通して、地域の障がい者理解を深めていく。

### 2. 職員・利用者数（平成28年3月末日現在）

- ・職員 9名（正規職員3名 嘱託職員1名 パート職員5名）
- ・利用者 11名（男子6名 女子5名）

### 3. 事業成果

- (1) パニックを起こした利用者に対しては職員がマンツーマンでの対応をしたり、別室でクールダウンしてもらったりといった対応をすることにより、大きな事故、ケガ等も無く、過ごす事ができた。
- (2) 利用者一人ひとり社会性、作業能力に応じ、時には本人の希望を聞き、適材適所の配置を行った。
- (3) グループ独自の「共有ノート」等で情報の共有を行い、口頭だけでは落ち度がある場面もあるが、共有ノートを確認することによりできるだけ、落ち度がないようにし、円滑なコミュニケーションを図りながら利用者支援を行った。
- (4) 利用者の能力を生かすようなアイデアが職員から出ることはあまりなかった。
- (5) リヤカー販売、遠隔地リヤカー販売（若穂、信更、小川、中条方面な

ど) 畑作業、大豆栽培を通して地域やその他の地域の方々との交流も生まれ、理解も大部深まった。

#### 4. 売り上げ結果

豆富（しょうゆ含む）	売上目標	990 万円	売上結果	9,677,871 円
大豆粉入り麺類		90 万円	売上結果	603,660 円
受託作業		20 万円	売上結果	137,785 円

## 平成 28 年度パン&スイーツグループ事業報告

### 1. 重点目標

- (1) パン売上げ＝収入の主力である事を忘れずに売上げ向上・購入客のため、様々なことにチャレンジし、「エコーンファミリーにお願いしたい」と言って下さるお客様を増やしていきます。  
(季節の新作パン・購入客の嗜好や流行のリサーチ・商品化、等)
- (2) 作り手・売り手、双方一丸となることで収益につながる事を大切にし、連携していきます。
- (3) 売上と経費のバランス、効率の改善を考えながら業務を行います。
- (4) 職員が行なっている作業は、いつか利用者さんも行えるように技術向上を図り、作業では専業・分業化から兼業化・効率化を目指します。
- (5) 「働きたい」の思いを応援し、「役に立つ」「必要とされる」「出来た」ことの喜びを共有します。

### 2. 利用者・職員数（平成 29 年度 3 月末現在）

- ・利用者 9 名（内 継続B型 6 名 生活介護 1 名 就労移行 2 名）
- ・職員数 10 名（内 正規 3 名 嘱託 1 名 パート 6 名）

### 3. 事業成果

- (1) パン売上げ向上・購入客の為パン類の生産・販売、サンドイッチの開発・生産、スイーツ類の生産・販売、新作スイーツの開発・生産を売上と経費のバランス、効率の改善を考えながら行いお客様のニーズに応えました。（ハムカツサンド、ハムサンド、シチューパン、くるくるチョコ、かぼちゃパイ、おやきパン野沢菜、おやきパンナス、桜牛乳パン、瀬戸内レモンパンパイ、キャラメルスティックパイなど）
- (2) ヌーベルエンタープライズ、ビオクラ食養からの受託スイーツ製造を行い、売上向上しました。（平成 27 年度比プラス 2,253,252 円）
- (3) 作り手・売り手、双方一丸となり収益につながる事を大切にし、連携しました。（販売先毎のパン指定表、ポストイットの活用など）
- (4) 利用者さんの技術向上を図り作業の兼業化をし、「働きたい」の思いを応援し「役に立つ」「必要とされる」「出来た」ことの喜びを共有しました。（ビオクラクッキーの生地仕込み、生地計量、粉篩い、並べ、焼き、袋入れ、クッキーの生地仕込み、食パン生地の丸め、分割、箱入れ、パン成型の兼業化）

4. 売上結果（わくワーク、ゆるくら分を含む.）

・	パン部門	売上目標	22,700,000 円	売上結果	21,377,918 円
・	スイーツ部門		11,000,000 円		14,125,509 円
・		計	33,700,000 円		35,503,427 円

## 平成 28 年度 マルチグループ 事業報告

### 1. 重点目標

- (1) 利用者一人一人の体調を毎朝確認し、体調に配慮した作業を提供する。
- (2) 利用者の特性を見極めた作業配置をし、新しいことにも挑戦出来る機会を増やす。
- (3) 利用者の様子や業務に関する自発的な情報共有の徹底をする。
- (4) 一日一日目標を持って利用者支援や業務に取り組み、工賃向上を目指す！
- (5) リヤカー販売やメール便などを通して地域の方々と積極的に関わり、常に感謝の気持ちを持てるようにする。

### 2. 利用者・職員数

利用者 30 名 (内 継続B型 25 名 就労移行 5 名)

職員数 10 名 (内 正規 5 名 嘱託 2 名 パート 3 名)

### 3. 事業成果

- (1) 作業前に作業の担当職員が利用者の体調をチェックし不調なところがあれば室内作業にするなど作業配置を工夫した。
- (2) 前年度の作業に加え、新しい施設外就労(平成農園、信州グリナリー等)や内職にグループ全体で取り組むことが出来た。手先が器用、体力があるなど利用者 1 人 1 人の特性を見極め作業配置をし、効率良く作業することができた。
- (3) 共有ノートを作成し朝会での連絡事項や日中の利用者の様子を記載するようになった。その結果、職員間で自発的に情報共有する姿勢が見られるようになった。
- (4) 前年度の日々の売り上げを下回らないように市場の動向や仕入先との情報交換を行った。リヤカーや販売先での売り上げを利用者と共に共有し売る＝工賃が上がるという意識を持たせることが出来た。また新しい施設外就労や内職でリヤカーに出られない日等カバーすることができた。
- (5) リヤカーやメール便などではすれ違う人や商品を買いに来てくれた方などに積極的に挨拶をすることができた。作業以外にも中学生や民生委員

との交流、夢まつりを通して深く地域の方と関わることができた。自分たちだけでエコーンファミリーを支えているのではなく地域の支えがあつてこそ1日1日を過ごせるという意識を日々の作業や交流で感じる事が出来た。

#### 4. 売上結果

- ・受託、施設外就労部門 売上目標 2,800,000 円 売上結果 4,379,459 円
- ・花部門 売上目標 6,400,000 円 売上結果 5,880,644 円
- ・計 10,260,103 円

## 平成 28 年度朝陽事業所事業報告

### 1. 重点目標

- (1) 利用者一人ひとりが、必要とされている・役に立っているが実感できる出番作りを実践できる事業所作り。
  - － 特徴の把握と適材適所への配置・事業所の独自性・魅力ある作業 ー
- (2) 障がい者支援の充実を目指す為に、職員一人ひとりが使命感を持ち、その役割と責任をきちんと果たす。
  - － 報告、連絡、相談の徹底・対話・協力・支え合い ー
- (3) 事業所の独自性の充実を目指す為に、職員一人ひとりが、自分は何をもって何をなすのかを考え、自発的、又はチーム一丸となって業務を行う。
  - － 柔軟な発想・チャレンジ精神・危機管理への徹底 ー
- (4) 利用者・職員が互いに成長し合い、充実した毎日を笑顔で送ることができる職場環境作り。
  - － 問題意識・支え合い・遊び心・チャレンジ精神 ー
- (5) 地域に根差し、地域に支えられている事業所であることを常に自覚した行動。
  - － 地域交流・情報交換・地域間連携 ー

### 2. 利用者・職員数 (平成 29 年 3 月末日現在)

利用者 2 名 (内 継続 B 型 1 名 生活介護 1 名 )

職員数 4 名 (内 正規職員 1 名 嘱託職員 1 名 パート職員 2 名)

### 3. 事業成果

- (1) 今まで参加することの無かった作業（ビオクラクッキーや草取り）に参加出来るよう、仕事を細分化することで、出番づくりを行った。利用者さんお二人とも、とても積極的に取り組んでいた。
- (2) 常日頃から、職員同士・利用者同士であっても、感謝の言葉を忘れずに伝えることで良い人間関係作り、良い働く場作りを行うことが出来た。昨年度までは、不安定な気持ちから、利用者さんが暴れてしまうこともあったが、今年度は暴れるという様子は一切無かった。
- (3) 毎週水曜日のグループ会の時間を大切にし、今年度初の試みであった休日営業やオープン記念イベントなど、意見を出し合い、職員利用者さん一丸となってチャレンジすることが出来た。
- (4) 土曜、祝日お試し営業を企画し、実施した。  
(10/15・11/23・1/28・3/25 売上合計：食事 65,150 円、豆富 14,120 円)

- (5) 喫茶オープン3周年記念イベントを企画し、開催した。  
 (売上：食事 17,900 円、豆富 7,850 円)
- (6) 食事で来店されたお客様に、お豆富の宣伝やお試し土曜営業の宣伝など、  
 +αの情報を伝える  
 ということを心がけた。
- (7) 朝陽地区住民自治協議会からの依頼を受け、9月1日(木)より、毎月第  
 1木曜日の午前2時間を、認知症オレンジカフェ(名称・まめカフェ)の会  
 場として喫茶を貸し出した。ドリンクやデザートを運ぶ仕事を通して、地域  
 の方々と顔を合わせる良い機会となった。また、おまめ喫茶そいていを知っ  
 ていただく良い場となった。

4.	売上結果	売上目標	売上結果
		喫茶部門 100 万円	960,350 円
	豆富部門	川中島事業所と合わせて 990 万円	9,393,076 円
			(朝陽 2,639,630 円)
	受託部門	25 万円	235,544 円

## 平成28年度 炭房ゆるくら事業報告

### 1、重点目標の成果

- (1) 炭焼き作業など居場所の提供からそれぞれ得意な分野での活躍できる場の提供ができ、魅力ある商品づくりにつながった。
- (2) 薪づくりから配達まで、丁寧商品を運び、喜んで頂ける仕事ができる。
- (3) 恒例の地域活動に積極的に参加した。篠ノ井市民会館閉館のイベントでは地域に存在が浸透してきているのも実感した。
- (4) 4月に健康診断を実施。利用者の健康に留意し、本人、家族と相談しながら、体重管理、服薬管理、持病管理など工夫した。
- (5) 避難訓練を実施。篠ノ井消防署の指導を受け、いざという時の備え、心がまえを皆で徹底した。

### 2、利用者・職員数

利用者17名（就労継続支援B型）

職員数6名（正規2名、嘱託1名、パート3名）

### 3、売上結果

(種別)	売上目標	売上結果
薪部門	2,200,000円	2,235,036円
炭部門	500,000円	552,415円
花部門	300,000円	351,400円
高原花豆	100,000円	99,620円
野菜（大根、白菜など）	35,000円	20,540円
施設外就労	3,200,000円	3,544,650円
ギフト企画（母の日、冬ギフト）	747,360円	776,651円
施設商品販売（パン、小物、豆富、花）	1,000,000円	1,082,024円

	平成27年度	平成28年度
売上総額	7,687,634円	8,801,923円
工賃支払総額	4,322,550円	4,930,775円
平均工賃額	22,871円(17名)	25,125円(17名)

## 平成28年度 就労継続支援B型事業所 わくワーク事業報告

### 1、重点目標

- (1)利用者さん一人ひとりが、自分らしく元気に通い続ける事ができる「居場所」と、持てる力を十分に発揮する事ができる「活動の場」としての両方の魅力を併せ持つ事業所づくり。(支援の充実・提供サービスの充実・ストレングス視点)
- (2)利用者さん一人ひとりが、「必要とされている、役に立っている」ことを実感し、エンパワメントできる支援環境をつくる。(役割の創出・生き甲斐の発見)
- (3)利用者さんの支援を充実させるために、全ての職員が責任感と使命感を持ち、成すべき役割を誠実に果たす。(組織運営・仲間意識・コミュニケーション)
- (4)職員一人ひとりが確たる自分の考えを持ち、自発的に業務を遂行すると共に、職員自身もエンパワメントできる事業所づくり。(柔軟な発想とそれに伴う行動力・人材育成・チャレンジ精神)
- (5)利用者さんと職員が、地域に支えられていることを実感しながら、共に育ち合うことができる職場づくり。  
(作業交流・施設外就労・実習受け入れ・ハーモニー「夢」まつり)

### 2、職員・利用者数(平成29年3月末日現在)

- ・利用者：定員20名  
          ：現員16名
- ・職員：6名
  - サービス管理責任者：1名
  - 生活支援員：1名
  - 職業指導員：3名
  - 目標工賃達成指導員：1名

### 3、事業成果

- (1)利用者さん一人ひとりが、自分らしく元気に通い続ける事ができる“居場所”として、利用者さんの希望する余暇活動の実施や健康診断の実施等、提供サービスの充実を図った。さらに、持てる力を十分に発揮する事ができる様“褒める支援”を心がけた。結果、褒められる喜びが誰かの何かの役に立っている実感へと変化し作業に対する意欲や能力の向上へとつながった。
- (2)利用者さん一人ひとりが、“必要とされている、役に立っている”実感が持てるように作業面では「松寿荘清掃」「山和製本株式会社」等対外的な接触の多い事業を積極的に取り入れた。実感に触れられる場を提供する事で様々な人との交流等を得て柔軟な対応力や責任感・使命感が養われた。
- (3)支援の充実を目的に、毎朝の職員会議を実施。連絡事項だけでなく利用者さんの挙動等も共有する事で職員間の意思疎通・役割分担が効率的に行なえた。
- (4)人材育成を基本とし、処遇等に関わらず研修への参加や対外的な作業への配置を行い職員一丸となり事業所を支え、押していく基盤作りを実施。新規事業の開拓や困難な事例への対応力が養われた。
- (5)利用者さんと職員が、地域に支えられていることを実感しながら、共に育ち合うことができる様、避難訓練の実施や実際の作業内容に関わる情報の提示を心がけた。  
例として、製菓の箱折りの実施の際、地域店舗の陳列状況の視察を行った。地域の企業パンフレットの作成や企業宣伝ツール等の作成作業等、視覚で認知しやすい業務の取り入れを積極的に行った。  
結果として、“自分の仕事”に触れる事で業務のモチベーション維持や苦手作業の克服へとつながり、さらに地域との密着感を経験する事で地域への感謝や業務への愛着・責任感が養われた。

### 4、売上結果

	平成 27 年度	平成 28 年度
売上総額	5,443,752 円	6,686,738 円
工賃支払総額	4,214,498 円	4,586,900 円
平均工賃額	28,866 円 (14 人)	29,593 円 (14 人)

## 平成 28 年度 就労移行事業 事業報告

### 1. 事業方針

- (1) 利用者が就労に向け意欲を持って作業、必要な訓練に取り組める環境を作る。
- (2) 利用者一人一人の特性、強みが活かされる作業、必要な訓練、またはそれら工程の工夫を図る。
- (3) 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底。
- (4) 日々目標を持って利用者支援、業務に取り組み、就労支援を推進する。
- (5) 利用者支援を行なう一方で利用者から学ぶ姿勢も忘れず、ともに成長していく。

### 2. 利用者・職員数（平成 29 年度 3 月末日現在）

利用者 5 名

職員数 3 名（内 正規 2 名 パート 1 名）

### 3. 事業成果

- (1) 作業、訓練が集中できるように、作業毎に作業場を区切り、また利用者個々の特性、相性を考慮した作業配置を行なった。
- (2) 就労アセスメントに基づき、利用者個々の長所、強みを活かした作業配置、作業の切り出し、新規作業の開拓を行なった。
  - 就労アセスメント：5 件
  - 新規作業：3 件（全て施設外就労）  
（山崎農園 [収穫部門]・㈱平成農園・信州グリナリ㈱）
- (3) 作業場の整理整頓、清潔感のある身支度など利用者の手本となるよう、まずは職員が 5S を意識して行動することで、5S を意識する利用者も見られるようになり、作業の効率も上がった。
- (4) 日々の作業支援（施設外就労・施設内作業）、就労学習会（座学・作業訓練）、就職面接会、職場実習などを通じ利用者のスキルアップを図り、一般就労の可能性を高めた。
  - 就労学習会：週 2 回実施  
（就労継続 B 型・生活介護利用の希望者も参加）
  - 就職面接会（10 月 5 日）：5 名参加（就労継続 B 型利用者含む）  
各自 1～4 社面接 就職に至らず
  - 職場実習：㈱ツルヤ 1 名 10 日間  
（山崎農園 1 名 就労継続 B 型利用者 5 日間）

○就職者のフォローアップ支援：7名 適時

(5) 利用者の良い行動（元気なあいさつ、接客時の気遣いなど）を職員間で日々共有し、利用者から学ぶ姿勢を忘れず、ともに成長していく事を心掛けた。

#### 4. 実績

就職者 1名

## 平成 28 年度 グループホーム「共同生活援助」事業報告

### 1. 事業方針

利用者の意志と人権を尊重し、関係法令を遵守するとともに、出来る限り居宅に近い環境の中で利用者の障害特性を理解した上で、心身の状況や意向を踏まえた食事、排泄、入浴等の生活全般の支援を行なう。

### 2. 利用者・職員数（平成 29 年 3 月末日現在）

<利用者>

	さんふれんず	さくら
定員	5名	6名
現員	男性 5名	女性 6名

<職員>

職種	員数	常勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
管理者	1		1		
サービス管理責任者	1		1		
生活支援員	4	4			
世話人	7			6	1
事務員	1		1		

### 3. 事業内容

#### ① 年間利用回数（一人平均）

さんふれんず：320回 / さくら：228回

#### ② 共同生活介護サービスの提供

#### ③ 避難訓練

日時：第1回 10月 3日（月） PM4：30～PM5：00

第2回 3月 15日（水） PM4：30～PM5：00

内容：避難訓練・通報訓練・消火訓練（第1回：消防署立会いのもと実施）

#### ④ 健康診断

日時：4月 25日（月）（エコーンファミリーに併せて実施）

#### ⑤ 余暇活動

- ・ エコーンファミリーでの土曜活動／施設一日レク
- ・ 食事ボランティアさんとの昼食会、地区の美化活動、誕生日会（メン

バーの誕生日に)、クリスマス会(12月) など

- ⑥ 連絡会(管理者・サービス管理責任者・生活支援員・世話人)

実施回数: 3回(必要に応じて、その都度実施)

内 容: 利用者の様子・支援について・その他業務についての連絡・確認

- ⑦ 研修会等参加(サービス管理責任者)

地域支援部会(知障協) / 暮らし部会(長野市ふくしネット)

## 平成28年度 「短期入所事業ゆうゆう」 事業報告

1、事業方針 在宅等において介護者の疾病やその他の理由により、短期間の入所を必要とする障害者に対し、入浴、排泄、又は食事等の介護や日常生活上の支援を提供し、障害者等及び家族の福祉の向上を図ることを目的とする。

### 2、利用者・職員数

・利用者 35名 (内 男性 27名 女性 8名)  
長野市：32名 千曲市 3名

・職員数 管理者 1名  
サービス管理責任者 1名  
生活支援員 2名

### 3、事業成果

- ①入浴・排泄 必要に応じて介助や見守りを実施した。
- ②起床・入床 起床時間 (6:00~7:00)  
入床時間 (20:00~22:00) 本人の意思を尊重し、援助した。
- ③脱衣 必要に応じて介助、確認した。
- ④整容 毎食後の歯磨き援助、介助、確認。洗面の援助、介助、見守り等、個性を尊重した適切な整容を援助した。
- ⑤食事 栄養と利用者の身体状況や嗜好に配慮し、バラエティーに富んだ手作りの食事を提供した。

#### <月別利用者数>

4月	24名	5月	25名	6月	27名
7月	24名	8月	24名	9月	11名
10月	9名	11月	10名	12月	13名
1月	11名	2月	14名	3月	11名

( \*年間利用者数 延べ 203名 利用回数 406回 )

( \*利用回数は 1泊2日=2回 でカウント )

## 平成28年度 「タイムケア事業」 事業報告

### 1. 事業方針

障害者の日常生活の継続的な支援を図るため、家族の急な用事・都合等の理由により、障害者の在宅での介護が困難な場合において、タイムケアを実施する。

### 2. 利用者・職員数（平成29年3月末日現在）

管理者	1名
サービス管理責任者	1名
支援員	1名（利用状況に応じて増員）

登録人数	長野市	23名	（男 13名 女 10名）
	千曲市	5名	（男 3名 女 2名）
	須坂市	1名	（男 1名）
	飯綱町	1名	（男 1名）
	計	30名	

### 3. 事業成果

家族の不幸等の急な都合により、在宅での介護が困難な場合に、職員体勢を整え、当施設でのタイムケアを実施した。

#### 月別利用者数

4月	5名（11.5時間）	5月	6名（18.5時間）
6月	5名（19.25時間）	7月	6名（20.5時間）
8月	4名（20.0時間）	9月	7名（29.25時間）
10月	10名（31.5時間）	11月	7名（27.0時間）
12月	5名（20.0時間）	1月	8名（19.5時間）
2月	5名（16.75時間）	3月	7名（19.0時間）

#### 年間延べ数

75名（252.25時間）

## 平成28年度 相談支援事業 事業報告

### 1、事業方針

- (1) 事業の運営に当たっては、市町村・障害福祉サービス事業所・他の関係機関等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善・開発に努めていきます。
- (2) 指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該障害者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行います。

### 2、職員数

- ・職員体制：相談支援専門員 1名

### 3、事業成果

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
- ・アセスメントの実施  
生活状況を把握・理解し、ニーズの把握に努めました。
- ・サービス等利用計画案の作成  
特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行いました。
- ・サービス担当者会議の開催  
市町村や障害福祉サービス事業者等、関係機関との連携を図り支援会議を開催しました。学校在学者に対しては新たなサービス利用の相談や手続き等を行いました。
- ・サービス等利用計画の作成
- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

サービス等利用計画の作成	75件	
	エコーン利用者	70件
	外部利用者	5件
モニタリングの実施	88件	
	エコーン利用者	87件
	外部利用者	1件